

令和4年度 卒業証書授与式

卒業生答辞 <全文>

寒さの厳しかった冬も終わりを告げ、少しずつ春の訪れを感じる今日、私たち第11回生の卒業証書授与式を挙げていただきましたこと、誠にありがとうございます。ただいま学校長よりご訓辞を、ご来賓の方よりご祝辞を賜り、卒業生一同心より感謝申し上げます。

私たち第11回生は、3年前の令和2年に入学しました。この時期は、新型コロナウイルス感染症が急拡大している時期でもあったため、入学式当日に急遽中止が決まり、私たちは入学式を行っていない学年です。そして、入学してすぐに緊急事態宣言に伴う休講、感染の収束が見通せない中での学校行事の中止、臨地実習の短縮・縮小など新型コロナウイルス感染症による影響は多方面にわたりました。これから看護を学ぶことへの期待を抱きながらも、本当ならできたことができない状況によって、もどかしさと焦りを感じながら過ごす日々は、無事に看護師になれるのかという不安を感じることもありました。特に、臨地実習の中止はきちんとした知識や技術を身につけて卒業できるのか、就職活動への影響は無いのか、と将来の自分に不安を感じることもしばしばでした。ですが、そのような状況であっても、毎日の授業で新しい知識や技術が身についていくことで、看護を学ぶ楽しさを感じ、少しずつ看護師に近づいていることを実感できました。はじめての臨地実習で受け持った患者さんに看護援助を行ったとき、手が震え、思うように体が動かなくなるほど緊張したことを覚えています。ですが、実際に患者さんに触れたことで安全で丁寧に援助を行うことの大切さや、コミュニケーションを図りながら援助を行うことの楽しさも感じました。コロナ禍において「しゃべらない」「近づかない」ことを求められ、臨地実習を学内実習に振り替えることを経験した私たちだからこそ、人と直接対面すること、生の声で言葉を交わし合うことの価値を知ることができたと思います。そして、看護は身体面にだけ眼を向けるのではなく、対象ひとり一人の抱える思いや生活背景などを統合して理解することが必要であることを学びました。新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中で、通常の学習を行うことが難しい状況でありましたが、私たちの「看護師になる」という意思を最後まで支えてくださった教職員の皆さま、非常勤講師の皆さま、実習病院・施設の皆さま、そして私たちに学びの機会を与えてくださった患者の皆さま、入所者の方々、本当にありがとうございました。また、何よりも感謝の気持ちを伝えたいのは家族です。どんな時でもそばで見守り、背中を押しながら支えてくれたことに感謝しています。ありがとうございました。

第12回生・13回生の皆さんは、これからの学習や臨地実習などに期待と不安でいっぱいなのではないでしょうか。これからの学校生活は楽しいことも辛いこともたくさんあるでしょう。ですが、どんなときでも「看護師になる」という初志を忘れずに学業に励んでください。そして、それまでの努力を自信につなげそれぞれが描く理想の看護師像に向かって努力を惜しまず、クラスの仲間同士で協力し合い前に進んでいってほしいと思います。

そして、11回生のみなさん。11回生は人を思いやる気持ちが強く優しい人ばかりで、と

でも居心地が良いクラスでした。入学したてのころ、クラスの人たちと仲良くなれるか不安があった私にとっては、クラスメイトが皆さんだったからこそ一緒に過ごすことが楽しいと感じることができ、辛いことも乗り越えることができました。また、臨地実習や国家試験の勉強では、全員がプレッシャーを感じていたのだと思いますが、そのような中でも教室では笑いが絶えませんでしたね。そのようなクラスだったからこそ、向上心を無くさずお互いに励まし合い、共に頑張ることができたと感じます。

私たちがこの3年間多くのことを学び、そして今日卒業式を迎えることができるのは、多くの方々のご指導・ご支援があったからだ感謝しています。最後になりますが、ご来賓の皆さま、校長先生をはじめ諸先生方、関係者の皆さま並びに在校生の皆さまのご健康とご多幸をお祈りし、答辞とさせていただきます。

令和5年3月4日

酒田市立酒田看護専門学校 第11回生

卒業生代表 川村 桃